

かわさきの新たなランドマーク

川崎市内を一望できる展望ロビー・スカイデッキを公開



新庁舎は、震災対応にも優れ、大規模災害時にも市民への情報発信、生活再建・復興の中枢拠点として役割を担います。



北東方面には、六郷河川敷や新宿に東京都庁、羽田空港の航空機離発着、東京タワーやスカイツリーなどが一望できます。



南東方向には、横浜ランドマークタワーやベイブリッジ、つばさ橋、また天気の良い日には富士山を一望することができます。

1938年に竣工した川崎市庁舎は、75年の歴史に幕を閉じ、新たに地上25階、地下2階、高さ約117mの新庁舎が誕生。

新庁舎25階には、地上110mの高さから市内を一望できる『展望ロビー・スカイデッキ』が設置され、市内は勿論、東京都内、羽田空港やスカイツリー、横浜ベイブリッジから富士山に至るまで眺望が楽しめます。どなたでも利用でき、入場無料。

【展望ロビー公開時間】

午前9時～午後9時まで
(土日祝日含む)

※設備点検や悪天候時には展望フロアを閉鎖することがあります。

市民代表の議員が熱い議論を展開する議場



議員席後方の傍聴席は、100名が議会の進行を見ることができます。また、親子席が設けられ、小さいお子さんと一緒に安心して議会をご覧いただけます。



議場内「演壇」からの風景。代表質問や討論などおこなう時に使用されます。議場や委員会室では、市民生活に直結する様々な課題を活発に議論されています。

新庁舎23階・24階部分にある市議会議場は、各区選出の議員60人が市民の代表として、活発に論戦が繰り広げられています。

新議場では、新たに採決における押しボタン方式を採用し、大型スクリーンに各議員の賛否が色分けして表示されるなど、採決態度が鮮明になりました。

傍聴の流れ【動画】



「議会かわさき」広報キャラクターのおよよんが川崎市議会の傍聴の流れをご紹介します。

議会中継



開催中の会議および過去の会議をご覧になれます。

会議録検索システム



川崎市議会の本会議・委員会等の全発言を対象に言葉で検索できます。

発行者 川崎市川崎区宮本町1 川崎市議会議員 飯田満

川崎市議会報告



ぜいじのみかた

2025年 vol.7



特集

決算審査特別委員会環境分科会でPCB問題を議論
決算審査特別委員会総括質疑で高濃度PCB問題を論戦!

川崎市議会議員
環境委員会 委員

みつる
飯田 満



Profile

川崎市議会第3回定例会

決算審査特別委員会環境分科会でPCB問題を議論

川崎市議会は、9月1日から10月10日までの40日間の日程で定例会が開会。主に令和6年度一般会計歳入歳出決算、公営企業及び特別会計決算の審査が主戦となった。決算審査における5つの分科会では、各委員が所管局に対する集中審議をおこなうなど活発な議論が展開された。

環境分科会でPCB(ポリ塩化ビフェニル)廃棄物処理問題で論戦

9月22日の川崎市議会、決算審査特別委員会の集中審議がおこなわれる分科会が開会されました。環境分科会では、PCB(ポリ塩化ビフェニル)廃棄物適正処理について議論を展開、環境局のPCBに対する事業の取り組みについて質しました。

昭和43年に発生した「カネミ油症事件」の原因物質であるPCBは、平成13年にPCB特措法を制定、施行し、政府の閣議決定に従い根絶する取り組みをおこなってきました。特措法における基本計画では、地方自治体に責務が課せられ「高濃度PCBの保管、使用製品の状況を実地に把握し、必要な調査をおこなった上で未届のPCBがないよう届出を徹底させること」とされています。

高濃度PCBの処理期限は、令和5年3月31日とされ、既に2年半が経過していますが、民間事業者の模範となるべき行政施設からは、今なお、散発的に高濃度PCBが発見されるなど、調査の手法や方法に問題があることを

指摘してきました。更に、行政における高濃度PCBの処理費用は市民の税金を原資とするもので、処理費用は1kgあたり約3万円と驚くほどの高額。安定器の重量は凡そ3kgなので、1個あたりの処分費は約9万円となります。



環境分科会でPCBについて議論する飯田

環境分科会質問と議事録に記録されない答弁一部抜粋

飯 田: 令和6年度中に行政施設から発見された高濃度PCBについて施設別安定器の数及び処理額を聞く。

環境局 上下水道局の入江崎水処理センター7台、大師河原ポンプ場6台、経済労働局の労働会館2台が発見され、処理費用は上下水道局が約112万円、労働会館は約34万円となっています。

飯 田: 数字を見て気づかないといけない。安定器の処理費用は約9万円なので、上下水道局の処理費が理解できるが、労働会館の1個あたりの単価が高すぎるがその理由は。

環境局 調べて後ほど答弁させていただきます。

環境局 廃棄物処理費用は約16万円で残りは運搬費となり、合わせて34万円の処理費用でございます。

※議事録未掲載答弁

飯 田: 運搬費で約18万円は高すぎる。市民の血税を使っただけに、もっと工夫が必要。努力をしてほしいと要望する。

※議事録未掲載答弁



川崎市議会第3回定例会 報告

決算審査特別委員会総括質疑で高濃度PCB問題を論戦!

昭和43年に発生した日本最大級の食品公害問題「カネミ油症」事件の原因物質であるPCB(ポリ塩化ビフェニル)問題について、議場で論戦。令和5年3月31日が特措法で定められて処理期限であるにも関わらず、この2年半の間に、行政施設から次々と高濃度PCBが発見され続けている。行政は散発的に発見される高濃度PCBについて「高濃度PCBは、(行政施設には)無いものと認識している」と公然と答弁を繰り返して来た。しかし、6月20日、飯田満の追及に「(高濃度PCBが)発見されることは否定できない」とこれまでの答弁を誤認だったとし、認識が変更された。今なお、高濃度PCBが行政施設から発見されていることについて、決算審査特別委員会総括質疑での論戦に挑んだ。

PCB論戦＝教育長は「遺憾」、上下水道管理者は「忸怩たる思い」

飯 田: 令和6年度、上下水道局において、13台の高濃度PCBが見つかった。この発見が発端に「新たな高濃度PCB廃棄物発見に伴う再確認」の全庁調査を実施した。

これまで議会で答弁が繰り返されて来た「高濃度PCBは無いものと認識している」と言う誤認答弁を、「発見されることは否定できない」と認識を修正させるきっかけが、この「再確認」調査である。

この調査結果では、「庁内で新たに発見された高濃度PCB使用照明器具はありませんでした」という議会報告だった。しかし、この結果を慮らすかのように、教育委員会事務局及び他局施設から23台の高濃度PCBが発見されている。

そして、またしても新たに教育委員会事務局の小学校3校と日本民家園から合計7台の高濃度安定器が発見されるという始末。再三に渡って調査を実施しているにも関わらず、教育委員会からは、その都度、高濃度安定器が発見されている。100歩譲って、対象施設数が多いにせよ、教育委員会の調査には疑問を感じざるを得ず、極めて遺憾だ。

調査手法、調査方法には問題があると指摘せざるを得ないが、PCB特措法における法令違反の現状に、教育長としての認識を問う。

令和6年度には上下水道局の入江崎水処理センターから高濃度PCBが発見され「新たな高濃度PCB廃棄物発見に伴う再確認」が実施されている。

またしても同じ入江崎水処理センターから高濃度安定器9台が新たに発見されたと一報が届いている。上下水

道事業管理者の今の心の内を聞く。

教育長: 調査は各施設における保管状況や校舎等の蛍光灯安定器等の委託業者による調査など複数回にわたり実施して来た。今回、普段、人が立入れない場所で保管されていた高濃度PCBが発見されたことや令和5年度に実施した委託調査の結果に修正等があったことにつきましては、子どもたちや市民が日常的に学んでいる教育施設を所管する組織を代表する者として、遺憾であると考えています。

水道事: 入江崎水処理センターは再調査のきっかけとなった施設。こうした場所から新たな発見があったこと、信頼性を損ねてしまったことにつきまして誠に申し訳なく思っています。

健全な水環境を保つことは、事業活動の基盤かつ使命であり、PCBを適正処理することは、まさに自分事でもあり、その意識が組織に徹底できなかったことに事業管理者として忸怩たる思いです。すべての職員が業務の意義を理解し、責任とプライドを持って取り組むよう力を尽くして参りたいと考えています。

